

2018 春季生活闘争討論集会



すべての働く者の底上げ・底支えをはかるとの意識が重要

～労働組合の社会性を再確認し、マクロ環境づくりに汗をかき！～



主催者を代表して挨拶する
連合福島加藤事務局長

連合福島2018春季生活闘争討論集会は、この程12月9日(土)10時～福島市内杉妻会館において、県内の構成組織・地区連合の役員180名が出席する中で、開催された。

冒頭、加藤光一事務局長は、「年が明ければいよいよ春季生活交渉が本格化する。労働者を取り巻く環境変化、とりわけ少子高齢化による労働人口減少、経済・社会の構造変化、そして人工知能と産業革命の加速化は、これからの労働組合にとって働き方や処遇の問題など、難しい対応に迫られるとの時代認識に立たなければならない。

迎える、2018春闘は正規・非正規関わらずあらゆる多様な働き方にも対応した、すべての働く者の底上げ・底支えをはかるとの意識が重要であり、組織労働者の頑張りが、未組織や不安定雇用で働く方々の処遇改善に波及させ、最低賃金引き上げとつなげていかなければならない。改めて、労働組合の社会性を再確認し、マクロ環境づくりに汗をかいていく」と力強くあいさつした。

続いての、基調講演では、連合総合労働局より富田珠代総局長が来場し、12月5日に決定した連合2018春季生活闘争方針と掲げた方針の背景や思いなどについて、丁寧な話をいただきました。「いずれにしても継続して①月例賃金4%引き上げにこだわる、②大手準拠・大手追随からの転換の継続、③付加価値の適正分配継続によって、すべての労働者の底上げ・底支えで格差是正をはかり経済の自律的成長につなげよう。」との趣旨で講演した。意見交換においては、電機連合・八巻事務局長から、「産別の取り組みで奔走するが、わかりにくい要求と交渉であり悩ましさと難しさを抱えている現実は否めない。いずれにしても組合員の負託にどう応えるか追及していきたい。」との提起をされた。



講演を頂いた本部・総合労働局
富田珠代総局長



要望を述べる電機連合・
八巻事務局長



進行を務めた連合福島・
遠藤副事務局長

